

令和 2 年 9 月 11 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03134

研究課題名(和文)多民族都市レスターの多宗教統合とアイルランド系移民

研究課題名(英文) Multi-Faith Integration and Irish Immigrants in the Multi-Ethnic City of Leicester

研究代表者

佐藤 清隆 (Sato, Kiyotaka)

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：90235333

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、第二次世界大戦以後のイギリスにおける多民族都市レスターの「好評判」再考に向け、申請者のインタビュー実践による「個人の語り」を手掛かりに、アイルランド系移民の歴史と文化について明らかにした。その際、イギリスの多文化主義政策によるレスターの多宗教統合との関連も重視した。また、本研究の過程で、「多宗教・多文化の歴史研究所」(明治大学)から『記憶と語り』シリーズ(英語版)の一部としてブックレット5冊(その1冊はアイルランド系移民関連のライフ・ストーリー)を刊行した。さらにこれらに加え、申請者自身の約20年に及ぶレスターのフィールド・ワークを振り返る作業もおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一に、アイルランド系移民を一枚岩ではなく、多様性・多層性を有する集団として捉え直し、それら集団間の歴史のプロセスを、「故郷」・「ディアスポラ」の経験やイギリスの多文化主義政策による多民族・多宗教統合との関連で明らかにした点である。第二に、文献史料だけでなく、移民を含む地元住民とのインタビューや現地調査を重要視し、研究を進めた点である。第三に、レスター在住のインタビューーとの共同による『記憶と語り』シリーズ(英語版)5冊(計13冊)の刊行である。こうした史料集の編纂は、研究成果の社会への還元という観点からも、学術論文の執筆と並んで、現代史研究者のきわめて重要な責務である。

研究成果の概要(英文)：In this research, I have aimed to reconsider the reputation of the British city of Leicester as an exemplary beacon of post-war multicultural integration. Using interviews carried out over a number of years with members of Irish community, I have built up an autobiographical picture of individual lives and examined the history and culture of the Irish immigrants in the city. In doing so, I have interrogated the impact on the community of the British government's multicultural policies, and the community's place within Leicester's multi-ethnic social fabric. In the process of this research, I published five booklets as part of the 'Memory and Narrative Series' (English edition), issued by the Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity at Meiji University. In addition, I have written a study charting the progress of my fieldwork carried out in Leicester over the past twenty years.

研究分野：人文学

キーワード：イギリス 多民族都市レスター 多宗教統合 アイルランド系移民 ローマ・カトリック教会 パーソナル・ナラティブ ライフ・ストーリー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1. 研究開始当初の背景

申請者が本研究の着想に至ったのは、在外研究で2001年から約1年間レスターに滞在した折、移民自身が都市の多民族・多宗教統合に大きく貢献している現実を目の当たりにし、こうしたテーマを研究することが、日本の将来を含め、「多民族・多宗教共生の問題」を考える上で役立つと考えたからである。その後、地元紙『レスター・マーキュリー』(以下、**LM**と略記)を定期購読し(なお、地元紙による申請者の紹介は**LM, 26 July, 2004**を参照)、さらにほぼ年に2回現地に足を運び、「宗教」を中心にレスターの歴史と文化について、研究・調査を続けてきている。しかし、これらの調査の過程で、以下の二つの問題を研究する必要性を認識するようになった。その一つは、レスターの公的なイメージ(例えば、「民族・宗教関係がうまくいっている模範的なモデル都市」と現実との「ギャップ」の問題であり、もう一つは民族・宗教間の関係、各民族・宗教内の多様性や差別(例えば、カーストによる差別)の問題である。

最初の頃は、移民のなかの多数派で、レスターへの多大な貢献が指摘されている南アジア系、とりわけインド系移民の「宗教」に焦点を当てて研究・調査を進めていたが、その調査の過程で、移民の多数派だけでなく、少数派からもレスターの歴史や文化を研究する必要性を痛感するようになった。その理由は、アフリカ系移民やホワイト系移民とのインタビューの過程で、彼らの歴史や文化を南アジア系、とりわけインド系移民と同じように論ずることの難しさを痛感したからである。さらに、すでに研究を進めてきているブラック系移民と今回のホワイト系移民とでも、彼らの歴史や文化に大きな違いのあることが明らかになってきたのである。今回、アイルランド移民を中心にホワイト系移民の歴史や文化について詳細に検討した所以である。

## 2. 研究の目的

本研究課題の申請時における当初の研究目的は、次の通りであった。申請者のそれまでの南アジア系移民・ブラック系(とくにアフリカン・カリビアン系)移民の研究成果や「受け入れ社会」の人びと(ホワイト・ブリティッシュ)の動向を踏まえ、「宗教」を中心にホワイト系(とくにアイルランド系)移民の歴史や文化を各民族・宗教内部や民族・宗教間の問題にも注意を払いつつ、イギリスの多文化主義政策によるレスターの多民族・多宗教統合との関連で明らかにすることであった。そして、アイルランド系側から、従来の研究とは異なる、より立体的かつ重層的なイギリス型多民族・多宗教都市のモデルを構築する素材を提供することであった。

## 3. 研究の方法

本研究の方法は次の二つであった。その一つは、「受け入れ」社会との関連で、個人や家族の「ライフ・ストーリー」からみた「故郷」、ディアスポラ・アイデンティティ、イギリス社会への適応過程、レイシズム、ネットワークの問題を扱うこと。もう一つは、アイルランド系移民の「核」となるコミュニティ・センター、キリスト教会(中心はローマ・カトリック教会)、イベントの歴史や文化を明らかにすることで、イギリスの多文化主義に潜む「陥穽」について新知を得ることであった。具体的な方法としては、関係者とのインタビューやその「語り」の分析、エメラルド・センターやローマ・カトリック教会のミサの参列、聖パトリックの祝日のパレードや他のイベントへの参加、文書館や図書館での史料収集などであった。

## 4. 研究成果

本研究では、多民族都市レスターやコヴェントリの南アジア系移民、ブラック系移民、ホワイト系移民、そして「受け入れ社会」の人びと(ホワイト・ブリティッシュ)の動向にも目を配りながら、アイルランド系移民コミュニティの歴史や文化を中心に考察を試みた。

(1) 2016年度から2019年度にかけて、多民族都市レスターの「好評判」再考に向け、アイルランド系移民に関して彼らとのインタビュー、教会訪問、イベントの参加などの現地調査を実施した。とくにインタビューに関しては、他の移民や「受け入れ社会」の人びとも含め、数多くの「個人のライフ・ストーリー」を蓄積し、その一部は以下の『記憶と語り』シリーズなどで利用した。

(2) 明治大学特定課題研究ユニットの「多宗教・多文化の歴史研究所」から『記憶と語り』シリーズ(英文)の一部として、5冊(-Nos.9-12, No.1)を刊行した。

1冊目(-No.9, 2016年7月)は、インドのグジャラート地方から1980年に渡英し、その後レスターで30年以上にわたりインド舞踊の舞踏家兼教師としてその普及に努めてきた女性のライフ・ストーリーである。2冊目(-No.1, 2016年12月)は、1958年にインドのパンジャーブ地方から渡英し、長いことレスターに近い多民族都市コヴェントリに暮らすヒンドゥー教徒のライフ・ストーリーである。レスターとの比較のために他の多民族都市に居住するインド系移民のライフ・ストーリーのブックレットを編集した。なお、このブックレットについては、Rina Arya (University of Wolverhampton, UK)による書評が*The Journal of Sikh and Punjab Studies*, (24,2017,pp. 271-273)に掲載された。

3冊目(I-No.10,2019年6月)は、1966年にジャマイカから5歳で渡英し、現在ビジネス・アドバイザーを務めるアフリカン・カリビアン女性のライフ・ストーリーである。本ブックレットの内容は、レスター多民族社会やブラック系移民の歴史は言うまでもなく、ホワイ系移民、とりわけアイルランド系移民の歴史とも深く関連している。この書評は、レスター市の著名な歴史学雑誌 *Leicestershire Historian*(no.56, 2020)に掲載予定である。4冊目(I-No.11, 2020年3月)は、レスターに居住するアイルランド系移民2世夫妻に関するライフ・ストーリーである。このブックレットは、アイルランド系移民に関する最も重要な研究成果であり、写真その他の資料も含め全体で292頁である。少数派のホワイ系移民から、アイルランド系移民・第二世代・第三世代をも含む多民族都市レスターの歴史と文化の一端を浮き彫りにしている。

5冊目(I-No.12,2020年3月)は、11冊目までの「移民」とは違い、レスター生まれのイギリス国教会のイングリッシュ(ホワイ・ブリティッシュ)夫妻のライフ・ストーリーで、「受け入れ社会」サイドから、第二次世界大戦前から現在までの多民族都市レスターの歴史と文化の変容を明らかにしている。

(3)同「多宗教・多文化研究所」から別シリーズ『ディスカッション・ペーパー』の2冊(英語版)に『記憶と語り』シリーズのブックレットに対するレスター在住者2人の長い書評を掲載した。一人は、シク教徒の男性(*Discussion Paper*, No.7, June 2016)で、もう一人はイングリッシュ女性(*Discussion Paper*, No.8, January 2018)である。なお、これらの学術雑誌の最初には、申請者自身のIntroductionを掲載している。また、『記憶と語り』シリーズについては、その書評が『駿台史学』(『駿台史学』No.163, March2018)に掲載された。これら書評の刊行は、新たな学術的国際交流の成果の一部をなすものである。

(4)申請者自身の約20年間に及ぶ『記憶と語り』シリーズを含めた多民族都市レスターのフィールド・ワークを振り返る作業をおこなった。それらは、イギリス都市農村共同体研究会(2017年6月10日)やレスター大学都市史センターのセミナー(2018年5月18日)で報告され、後にそれら報告の一部が『駿台史学』(No.166, March 2019)に掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kiyotaka Sato	4. 巻 166
2. 論文標題 The Multi-Ethnic City of Leicester: Reflecting on the Memory and Narrative Series	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sundai Shigaku (Sundai Historical Review)	6. 最初と最後の頁 89-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤清隆	4. 巻 82
2. 論文標題 多民族都市レスターのホワイト・ブリティッシュたち	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 明治大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 159-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤清隆	4. 巻 113
2. 論文標題 多民族都市レスターに憑かれて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 広島日英協会会報	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Kiyotaka Sato
2. 発表標題 Personal Narrative of Residents from Multi-Ethnic City of Leicester from the Post-War Period to the Present Day
3. 学会等名 Centre for Urban History, University of Leicester, UK
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤清隆
2. 発表標題 「記憶と語り」シリーズを振り返ってー「リサーチ・プロセス」のなかで考える
3. 学会等名 イギリス農村都市共同体研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 Kiyotaka Sato (edited and written)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity, Meiji University	5. 総ページ数 pp. 180
3. 書名 The Life Stories of Peter and Margaret Adamson: An Anglican English Couple Living in Leicester	

1. 著者名 Kiyotaka Sato (edited and written)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity, Meiji University	5. 総ページ数 pp. 292
3. 書名 The Life Stories of Nessian and Maureen Danaher: A Second-Generation Irish Couple Living in Leicester	

1. 著者名 Kiyotaka Sato (edited and written)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity, Meiji University	5. 総ページ数 pp. 296
3. 書名 The Life Story of Dorothy Francis, MBE: An African-Caribbean Business Woman in Leicester	

1. 著者名 佐藤清隆 (編集) [英語版]	4. 発行年 2018年
2. 出版社 多宗教・多文化の歴史研究所	5. 総ページ数 71頁
3. 書名 『多宗教・多文化の歴史研究所ディスカッション・ペーパー』第8号	

1. 著者名 佐藤清隆	4. 発行年 2016年
2. 出版社 同学舎	5. 総ページ数 pp.136 執筆頁 pp.105-117)
3. 書名 道重一郎編 『英国を知る』 第8章	

1. 著者名 Kiyotaka Sato (edited and written)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Research Centre for the History of Religious and Cultural Diversity, Meiji University	5. 総ページ数 pp. 202
3. 書名 The Life Story of Mrs Nilima Devi, MBE: An Indian Classical Dancer in Leicester	

1. 著者名 Kiyotaka Sato (edited and written)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Reserch Centre for the History of Religious and Cultural Diversity, Meiji University	5. 総ページ数 pp.144
3. 書名 The Life Story of Mr Ram Krishan(Prashar): An Hindu in Coventry from Punjab, India	

1. 著者名 佐藤清隆 (編集) [英語版]	4. 発行年 2016年
2. 出版社 多宗教・多文化の歴史研究所	5. 総ページ数 158頁
3. 書名 『多宗教・多文化の歴史研究所 ディスカッション・ペーパー』第7号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----